

苫東環境コモンズの活動をまとめて報告



haskap  
NEWS LETTER

～コモンズの現地から発信する～

# 勇払原野のSPIRIT

## コモンズの視線

勇払原野のシンボルと言えばハスカップですが、いくつかのブームの波をくぐっている間に、市民のハスカップ摘みという原野の風物詩は次第に風化してしまったのでしょうか。昨年、長年の踏み跡もわからなくなったハスカップ・サンクチュアリでひとり悲壮な蘘漕ぎを迫られ、驚きを隠せませんでした。ハスカップの原生地は、いよいよ文字通りの北海道遺産のように思い出の世界に甘んじる時代到来かという思いも頭をよぎりました。裏年といわれる今年はどうか、7月初旬にはクマスプレーを持って摘みに出かける予定です。

さて、北海道経済の底上げのため約70年前に始まった勇払原野の巨大な工業開発（西港、のち東港）は、今や道内経済を牽引する重要な原動力のひとつとなっています。コモンズが通年活動する苫東地区では、順調に企業立地が進み現在120社以上の立地を見ていると、この春報道されました。広大な緑地を確保し自然環境を保全するというアセスの考え方と取り組みは続いています、インダストリアル・パークという当初の理想の実現に向けた歩みを地域の我が事として見守っていきたくと思います。

昨年の年の瀬にもう本ニュースレターの役目は終わったとみなしたのですが、年明けに翻意して再開継続に至った意味をあらためて考えてみました。一言で言えば、コモンズという地域活動の素顔を原野変遷の経過の中にポツポツと文字と画像で位置づけておくことも少し意味がある、と考え直したためでした。折々の会員は入れ替わりその時々プレイヤーは旅人のような存在であり、それらを都度記録する時間軸のあるキャンパスはやはり必要だ…、そんな感じかと思っています。

NPO <http://hayashi-kokoro.com/commons00.html> 雑木林だより <http://hayashi-kokoro.com/zouki00.htm>

## Topic 1 線下地放置材の利活用プロジェクト



積雪期に入ってから、会員が大島山林の南東端に北電線下地の皆伐跡を偶然発見してから、土地所有者の了解をとり、令和6年1月末から、散在する材の玉切りと運搬など効率的な作業の段取りを始めた。数回の試みをへて3月30日小型トラック2台を借り、会員総出で10往復した。しかし運びきれず時間切れで切り上げた。相当な量である

巷間、森林や環境という理念の議論は活発だが、木材のカスケード利用や需給システムとなるとまるで社会的連携がない。身近な木材を経済ベースに乗せることは当面無理のようで、今はコモンズのようなロコミとコミュニティ的ゲリラ的利活用が最良の方策のようだ。木は早晚腐るから待っていられないうえ、処理に要する膨大な手間が背景にある。24/03/30

## Topic 2 切り株をシイタケ台木とオブジェに

苫東コモンズの大事なミッションの一つは日本の北限に位置づけられているコナラ群落の保全である。管理マニュアルのない現状にあって除間伐の手法を試行のさなかだが、弱度の間伐では林内が暗すぎて萌芽枝が生育できず、シカの食害がそれに輪をかけるため、現在のところ皆伐による更新が最有力ということだけは結論として出てきた。

一方残された切り株はただ腐植を待つだけになるが、それならばと、シイタケやナメコの駒を打つことに踏み切った。山仕事の楽しみのための投資である。5/11はシイタケ500コマ、5/18はナメコの植菌作業を執行した。



5/11は植菌作業の後、根返りしたハルニレ巨木の切り株を、ポータブル・ウインチで牽引して戻した。今季から開設される予定のフットパス「ハルニレの径」（仮称）の風景改善が目的である。オブジェのような存在感がある。



### Topic 3 ポータブル・ウインチで作業拡大

当NPOでは平成28, 9年頃からポータブル・ウインチを活用して冬期間の集材を行ってきたが、当時は高価なものだったため使用料を払って借りていた。今季は会員



が自らの作業用に購入したものを無料で貸し出してくれることになったので、取り急ぎ土場さえ作れば100m程離れた間伐木も容易に移動させ利活用できるようになる。Topic2の根返りした切り株の修復作業もそのウインチを使用して比較的容易に実施できた。用途はかなり広いと予想されている。(ウインチ画像は2023/Feb前バージョン)

### Topic 4 小型トラックの敷出しと里山の景観形成



静川の育林コンペの筆者のゾーンでは数年前から小型トラックを林内で利用できるルートづくりをして効率化を図っている。恵まれた平坦地なので林床処理を入念にすれば間伐による一年分の薪づくりは単身でも難しくない。約15~20本を伐倒すればあと数日で完了できる。



静川の小屋(写真)周辺の里山景観づくりでも、小型トラックのルートを確認しポータブルウインチを活用すると

山仕事は格段に楽になるため、実現に向けて小さな土場づくりと「ささみち」フットパスの拡幅を行った。これで新しい時代の美しい里山づくりに飛躍できるか。

### Topic 5 探鳥会とヒグマ出没

遠浅町内会などの山林利用を促進するための探鳥会を、今年も日本野鳥の会の協力のもと、5月25日(土)に開催。小学校の運動会と重なったため町内からの参加者は数名だったが、その分、地域情報も満載の交流の場となった。

気になるのはヒグマ出没で、昨年11月18日は山林の池の近くでクマが目撃され、今年は6月14日に旧小中学校跡でヒグマ一頭が駆除された。静川でも2頭目撃された。



コモンズの林は除間伐によって見通せるので散策時の恐怖感が少ないが、管理作業などではクマスプレーの持参を呼びかけるなどして事態を注視している。

### Topic 6 山菜採りで苫東休暇



「勇払原野の風土を共有する」という苫東コモンズのスローガンを日常的に楽しむのが春と秋の山菜採り。今年もスドキは山仕事の前後に、ワラビは2km離れた柏原で、コシアブラ(写真右)は静川で、ポーラーは10km離れた弁天でと、山仕事の合間に場所を選びながら満喫できるのは、ここを拠点にする環境ボランティアならではの休暇感覚。昔、JTBの旅行商品、椎名誠の「山形休暇」にちなんで「苫東休暇」と呼び始めたのはもう15年前になる。

### 編集後記

■穏やかな新緑から急に初夏を迎えました。先日、5年前に皆伐した更新跡に足を運ぶと、成長する木々のパワーに圧倒されました。おそらく「氣」と呼ばれるもので、シャワーのように浴びれば健康につながりそうですが昨今は森林セラピーという言葉もとんと下火。■4月、シンガポールを訪問。気温は約40℃、造園の教科書のように埋立地に整備された都市国家が今、世界で最も人気があるのだから。港の沖合には1,000隻単位で貨物船がいると地元のガイドは言い、なるほど交易や金融で経済はフル活動のようで巨大なガラスのドーム内で標高2,000mの環境を人工的に模したクラウドフォレスト(雲霧林)が象徴していました。豊かさとは何か、改めて考えさせられますが、四季の明確な自然が里山として存在する北海道・胆振の幸せを再評価。「薪のある暮らし、万歳」である。(草刈)

[kt-884-556@nifty.com](mailto:kt-884-556@nifty.com) 090-6999-2765